

今日のトピック **インドの金融政策（2016年8月）** **政策金利を据え置き、先行きは追加利下げも**

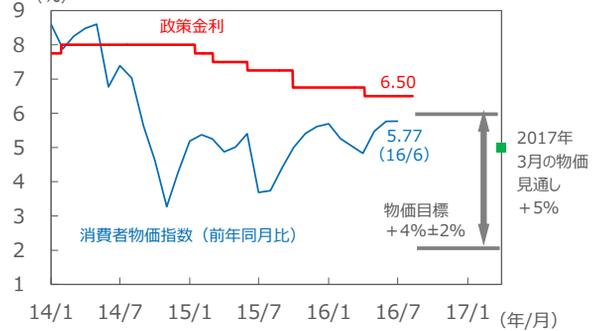
ポイント1 **政策金利を据え置き** **市場予想通りの決定**

- インド準備銀行（RBI、中央銀行）は9日、政策金利（レポ金利）を6.50%に据え置きました。2会合連続の据え置きです。
- 政策金利の据え置きは市場予想通りでした。9月4日の任期満了をもって退任するラジャン総裁にとって、今回が最後の政策決定会合でした。

ポイント2 **金融政策のスタンスは緩和的** **物価動向を引き続き注視**

- 6月の消費者物価指数は前年同月比+5.77%と、RBIが17年3月の目標とする+5.0%を上回っています。RBIは、足元で食品やサービス価格が高止まりしていることに加え、給与委員会勧告に基づく公務員の住宅補助の引き上げが、期待インフレに与える影響を懸念しており、「インフレ率のリスクはRBIの物価見通しを上振れること」としています。
- ただし、「引き続き緩和的な姿勢を維持する」との表現は維持されています。RBIは金融緩和姿勢を継続しつつも物価動向を見極めるスタンスです。

【政策金利と消費者物価指数】



(注) 政策金利は2014年1月1日～2016年8月9日。
消費者物価指数は2014年1月～2016年6月。
物価目標はインド準備銀行（RBI）による。

(出所) Bloomberg L.P.、RBIのデータを基に
三井住友アセットマネジメント作成

【インド株式、債券】



(注) データ期間は2015年7月1日～2016年8月9日。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 **先行きは新総裁の下で追加利下げも**

- 物価については、モンスーンの多雨が続く見込みであることから、農産物のインフレリスクが後退し、年後半にかけて鈍化に向かうと見られます。ラジャン総裁の後任はまだ決まっていますが、成長推進志向の新総裁が選ばれる蓋然性が高いこともあり、年内にもRBIの追加利下げが行われると見込まれます。
- インド株式市場は、好調な景気や改革期待を背景に、主要株価指数であるSENSEXが8日、年初来高値に迫るなど、堅調に推移しています。また、インドの10年国債利回りは7.1%台と約3年ぶりの水準に低下しています。RBIの適切な金融政策運営がインドの金融市場をサポートすると期待されます。

ここもチェック! **2016年 8月 4日 インドの規制・制度改革 GST導入への大きな一歩** **2016年 7月26日 「モンスーン」、今年の降雨は順調 (インド)**

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。